

採集記録・観察記録

アサギマダラを確認

円子紳一¹⁾

Shinichi MARUKO, 2021. Confirmation record of *Parantica sita*
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 21: 36.

2020年7月6日、浦幌町帯富（北栄団地）でアサギマダラ *Parantica sita* (Kollar, 1844) を採集した。町内での採集は、1980年6月1日の2頭（万年、活平）以来で40年ぶりである（円子 1980）。2017年9月9日には、町東山で写真撮影されている（円子 2018）。

7月6日午前10時頃、家庭菜園の横に咲く外来種のコウリンタンポポ（赤花）にふわりと舞い降りた。捕獲する用具を持ち合わせていなかったの、素手で捕まえようとも考えたが、逃がす訳にはいけないと思い直した。数十メートル離れた我が家に駆け戻り捕虫網を手に戻ると、幸運にも近くの道路脇に居てくれた。

本種の成虫の前翅長（ぜんしちょう＝前翅の根本から先端までの長さ）は5～6センチほどで、採集した個体は5.4センチだった。前翅の半透明の水色部分や後翅の斑点の「浅葱（あさぎ）」色が名前の由来。

以前は、日本で幼虫が越冬できる北限は食草キジョラン（ガガイモ科）の分布にほぼ一致していて、関東あたりまでといわれていた（白水 2011）。1980年以前はめったに見られなかったが、2000年以降、室蘭市や函館市周辺、松前町などでは、ほぼ毎年見られるようになった。近年は道内各地で記録され、日高山脈の東側では中札内村や大樹町に記録が多いとされている（永盛ほか 2018）。

道内での食草としては、イケマ（ガガイモ科）が確認されている。イケマは浦幌にも各地に生育しているので、地球温暖化の進行により発生する日が来るかも知れない。

引用文献

- 白水隆. 2011. 日本産蝶類標準図鑑（第3刷）. 学研教育出版, 東京.
- 永盛俊行・永盛拓行・芝田翼・黒田哲・石黒誠. 2018. 完本 北海道蝶類図鑑（第2刷）. 北海道大学出版会, 札幌.
- 円子紳一. 1980. アサギマダラ2頭を採集. 浦幌町立郷土博物館報告, 16: 24.
- 円子紳一. 2018. 37年ぶりにアサギマダラを確認. 浦幌町立博物館紀要, 18: 41.



図1 2020年に浦幌町帯富で採集されたアサギマダラ

1) 浦幌の自然を楽しむ会 〒089-5634 北海道十勝郡浦幌町字帯富